

西濃農林事務所の普及活動状況

平成26年7月28日現在

今月の重点活動

■新規就農者 **関ヶ原町で認定新規就農者誕生**

7月14日、関ヶ原町役場において、関ヶ原町担い手育成総合支援協議会が行われた。今年度から関ヶ原町で水稻を中心とした就農者の申請する青年等就農計画の認定審査が議題であった。同計画書は、町が策定する「農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想」をもとに認定基準に沿って審査された。いくつかの点で意見が出されたものの、「若い人に地域農業を守ってもらいたい。実例を作る意義は大きいと考える。これらのことからぜひ認定したい。」という意見でまとめ、関ヶ原町では第1号の認定新規就農者の誕生となった。技術的な点については過去10年近くの間、手伝いを通じて習得しており、農業普及課としては、申請者の意欲、関係機関の思いも踏まえながら栽培のポイントで支援を行って行きたいと考えている。

活力ある新産地づくり

■ブロッコリー **ブロッコリー栽培研修会の実施**

ブロッコリー栽培前研修会が各部会(大垣部会7月25日、不破部会7月4日、安八部会7月7日)で開催された。

今年度の品種構成及び苗注文等についてJAから説明された。

農業普及課からは土壌診断に基づいた施肥設計、湿害対策のためのほ場準備及び品種に応じた適期定植について重点的に説明を行った。

今年度から年内出荷を主体とした計画に切り替わるため、高温に強い早生品種を本格導入し、定植時期を前倒しにするなどの対応を行い、出荷率の向上を図っていく。



【研修会の様子】

売れる農畜産物づくり

■水稻 **米の高品質安定生産**

＜管内各地で研修会＞

JAにしみのでは6月上旬から支店単位で水稻現地研修会を開催している。研修会では品質の良いお米の安定生産に向けて、支店担当者と営農経済センターのアドバイザーが今年の生育状況を説明し、病害虫の発生状況と対策、中干しなどの水管理について指導した。普及課からも説明を補足し、適期作業を指導した。

地域によっては来月も研修会が計画され、穂肥の管理、出穂期の防除について指導する。

＜生育状況＞

早場米の海津市あきたこまちの出穂期は、7月9～21日となり、4月中旬植えの作型で平年並の出穂(昨年よりやや早い)となった。4月末～5月上旬植えは平年よりやや遅くなる見込み。出穂後のカメムシ防除は、7月18日から始まった。

他品種の出穂は、ひとめぼれ・コシヒカリで平年よりやや遅くなる見込みである。また、管内のあさひの夢、ハツシモは田植え後の好天・高温により、茎数は順調に増加している。

■トマト **海津トマト出荷終了 販売反省会開催**

6月27日に海津温泉にて海津トマト部会販売反省会が開催され、平成26年産の実績と



【赤坂での研修会】

出荷推移について、全農、農協、市場関係者より報告があった。平成 25 年産と比較して、出荷量（前年対比 97%）、販売額（前年対比 95%）及び単価（前年対比 97%）すべてで下回った。出荷ピークの始まる 4 月に消費税 8%が導入されたことや 5 月末の高温により一気に出荷量が増加し、販売に苦戦した影響などが春以降の販売としては大きかった。栽培面では、4 月以降の乾燥が長期間続き、後半の出荷量に少なからず影響を与えたことを普及課より説明し、次年度は灰色かび病の対策とともに、乾燥期における灌水（回数・量）や換気の調整等の対策を行う必要性を説明した。

■ 甘長ピーマン 高温対策（遮光）及び病害虫対策を実施

近年、夏期高温の影響から 7 月以降の出荷量が減少しているため、遮光ネット設置による高温対策を実施中である。今年では約 10 名の部会員が遮光ネット涼感ホワイト（遮光率 30%）を導入した結果、晴天時において 4℃ハウス内の温度の低下が確認された。今後は、増収効果を検討する予定である。

また、うどんこ病及びオオタバコガによる果実の食害被害が発生している。そこで、それぞれの病害虫対策について巡回指導を行うとともに各出荷場に注意喚起の掲示を行い被害防止を図った。



【遮光ネットを設置した甘長ピーマンハウス】

■ いちご 総会の開催

JAにしみの海津苺部会（6/26）および平田町苺園芸組合（7/11）でそれぞれ総会が行われた。いずれの部会も H25 年産は収量減の単価安となった。生産者側は反収増に向けた取り組みを、市場側は単価高に向けた取り組みを進めていくことが確認された。農業普及課より、H25 年産の減収の要因として、8 月から 10 月まで高温が続いたため、頂果房と腋果房の花芽分化時期が開きすぎたこと及び 2 月以降の乾燥により草勢が落ちたことにより収量が減少したこと説明した。このため、26 年産では、定植時期が早くなりすぎないように呼びかけた。また、厳寒期であっても春向期に向けた灌水管理を徹底するよう呼びかけを行った。

■ なし ハウス幸水の出荷始まる

7 月 7 日に曾根地域でハウス幸水の初出荷が行われた。

規格は LL、L が中心で 0.5kg パック：238 パック、2kg 入：28 ケース計 175kg が全農を通じて岐阜市の市場へ出荷された。昨年より小玉傾向であったが、6 月の多日照の影響もあり、糖度 12 度以上と甘い梨に仕上がった。農業普及課からは、収穫時期の害虫（ハダニ類、カメムシ）防除に関する情報提供を行った。

戦略的な流通・販売

■ 農産加工グループ 安八町農産加工運営委員会活動総会の開催

5 月 27 日安八町農産加工運営委員会の総会が開催され、25 年度活動実績・収支決算、26 年度活動計画・収支予算案が承認され、来賓として、町長及び農業普及課長が招かれた。総会后、漬物・梅・薬草部会がそれぞれ手掛ける商品の紹介を兼ねた手作りの食事が振る舞われた。梅・薬草部会においては、今年度新たな商品づくりの試作に取り組む。

H26 開発品目 梅部会：ハチミツ梅
薬草部会：梅クッキー、ほうれんそうケーキ

多様な担い手の育成・確保

■ 女性農業委員 女性農業委員の登用

第 22 回農業委員統一選挙後の西濃管内女性農業委員は、新たに海津市 2 名、安八町 1 名が登用された。輪之内町の 1 名と合わせて管内女性農業委員は 4 名に増員した。